



## ○前学期前半を振り返って！

前学期前半を振り返ってみると、皆さんの成長を一番実感しているのが、登校時の「あいさつ」です。はつらつとした挨拶、きちんと立ち止まってのあいさつ、笑顔でのあいさつ、自分からのあいさつなど、校門に掲げてある「世界に広げよう 吉田のあいさつ」に一步近づいたと思います。前学期後半も、先輩たちが目指した素晴らしいあいさつができる学校づくりを進めていきたいと思ひます。

また、大きな交通事故や生活事故もなく、自分の命を大切にできたことも非常にうれしいことです。夏休みも、お子様たちが自分の命を守るように、よいこと、悪いことの判断をして、危険から身を守る行動がとれるようにご支援をお願いします。

さらに、今年度は新しい取組として、3年生の嬉野中、塩田中との交流を、両校の協力を得て実施しました。3年生にとって、他校の同級生と仲良くなったり、他校と本校の違いを感じたりと、とてもよい機会となりました。両校との交流後、最上級生としての自覚も高まり、学習や生活面でそれぞれがもつよさが発揮されることが増え、今後の更なる成長を期待しています。

## ○どんな夏休みにする？

夏休み直前の17日(水)に「夏休みにチャレンジしたいこと」をテーマに、4人の生徒が全校スピーチに臨みました。

「苦手な教科の学習に取り組みたい」、「暑いけれど、気合いを入れて部活動の基礎をしっかりとやりたい」など、それぞれで頑張りたいことを発表しました。3年生からは、「受験勉強や体験入学を頑張りたい」との発表があり、進路に向かう意識の高まりを感じました。

さらに、スピーチの中に「手伝いを増やすことにチャレンジしたい」との発表がありました。そのスピーチを聞いて、「家でゴロゴロしたままではなく、家の



人が喜ぶように手伝いをしたいです。」との言葉がありました。手伝いをすることは、生活に必要なスキルを身に付けるだけでなく、責任感や論理的思考力を育てるのに非常に有効です。時間がなかったり、失敗したりすることもあります。が、「経験は無駄にはならない」の言葉通り、子供たちの成長につながります。また、リアルな活動を多くするほど、大人になった時に自尊心や向学心が高いとも言われています。生徒の皆さんも、手伝いを面倒くさからず、将来の自分づくりと捉えて、積極的に取り組みましょう。

## ○戦後79年目の夏です

NIE(新聞を取り入れた教育実践)の一環で、自分で選んだ新聞記事についてまとめ、放送で自分の考えや感想を紹介しています。

その中で、ロシアによるウクライナ侵略に関する記事(5月20日付 佐賀新聞)と18年間にわたり300回を超えた「ヒバクシャ」の記事(6月7日付 毎日新聞)を取り上げてのスピーチがありました。

【ロシアによるウクライナ侵略に関するスピーチの感想等】

- ・なぜ、自分たちのことしか考えないのだろうと思いました。
- ・簡単に人の命が奪われているので、早く戦争が終わってほしいです。

【ヒバクシャに関するスピーチのまとめより】

- ・核兵器のない世界にしたいと思っている人が多いが、すぐにそうなるには難しい状況があります。しかし、核兵器の恐ろしさを後世にきちんと伝え続けることは大切なことだと思いました。

今から79年前の1945年8月6日には広島に、9日には長崎に原子爆弾が投下されました。日本は、15日にポツダム宣言を受け入れ無条件降伏し、日中戦争、太平洋戦争が終わりました。その戦争の中で核兵器が使用され、多くの方が犠牲になりました。

8月6日、9日にはそれぞれの地で平和祈念式典が開催され、その様子が放送されます。また、戦争や平和に関わると新聞記事やニュースも多くなります。ぜひ、ご家族で日本の歴史を振り返り、平和について考えてみては、いかがでしょうか。

